

辻 順行（編）

肛門疾患診療の教科書 [Web 動画付] エキスパートが伝授する診断・治療

黒川彰夫

『日本臨床肛門病学会雑誌』前編集委員長/黒川梅田診療所院長

本邦においては、大腸疾患についての専門書や教科書は多く見られるが、肛門疾患に関する成書は非常に少ないのが現状である。日常診療では頻度の高い極めてありふれた疾病であるにもかかわらずである。結果、卒後研修のころから一般的に「痔」と呼んで軽んじて扱う傾向にある。その原因は、以前から肛門専門医の間で論じられてきたように、大学の医学教育や卒後研修の中で「肛門病学」が体系立てて指導されていない点にあるのみならず「肛門病学」の存在すら認められていない点にあるのではないだろうか。

過去にいくつかの専門書や教科書の分担執筆に携わった者として、今回の辻順行先生の編集された『肛門疾患診療の教科書』は、驚きや感動を感じた点があまた認められた。

まず、第一に斬新な手法で手術の動画を採用していることである。執筆者が自らの手術手技を半永久的にこのような形で示し残すことは、学会やセミナーなどでの発表・供覧と

は趣も度量も随分異なると思われる。分担執筆者の若手の登用の意味はここにあるように思えた。いずれにしても、普く読者にとっては、各執筆者の動画を見ることによって二次元から奥行きが加わった三次元の状態をリアルの世界として感じ取ることができるであろう。したがって、これから肛門疾患について勉強しようとする医師たちはもちろんのこと、自らの手技を再確認、再考しようとしている医師たちにとっても、それぞれの日常診療に大変参考になる書籍となると考える。各分野でこのような形式の専門書が増えてきていることは、小生のような老兵にとっては隔世の感がある。しかし、日常診療においては実際の診療や手術などを経験し、自己研鑽に励んで生の感性を養うことも非常に大切であると考え。

辻先生との出会いは30余年前になるが、若手のリーダーとしてその頃から学会活動や論文執筆などで頭角を現していた。痔瘻の診断に経肛

門的超音波検査が有用であるという学会発表や論文で注目を集めたのを鮮明に記憶している。その後、彼はさまざまな苦難を乗り越え、ついに2023年11月に第78回日本大腸肛門病学会学術集会を開催し、大成功を収めたのである。わが事のように嬉しく感じたのと時を同じくして本書が発刊されたのである。編集者でもある先生が「序」で述べておられるように、まさに執筆者の血と汗の結晶の表れとして本書が出版されたように私も感じながらこの書評を著わしたのである。

本書が、これから肛門病学を学ぼうとしている外科の先生だけではなく、内科や産婦人科の先生方にも教科書として日常診療に利用されることを期待している。

●B5/頁164/2023年10月

定価：8,800円

（本体8,000円＋税10%）

[ISBN978-4-260-05295-5]

医学書院 刊